

■ 学校便りの6年生への配付 (長井南中学校便り)

長井南中学校では、平成17年から学校便りを全小学校6年生に配付している。中学校の教育活動の様子や生徒のがんばりなど、多くの方々に知ってもらい、入学前に少しでも夢や希望をもって入学できるようにしている。毎年60号以上にわたり発行配付し、日常化している。



■ 支援カードの活用を図った「小中連携懇談会」の実施

長井北中学校と長井南中学校では、共通した形式の「支援カード」が使われ、困り感を抱いている児童についての引き継ぎを行うことにしている。1月下旬と6月に小中学校の関係職員が一堂に会して、個々の児童に関する引き継ぎや小規模校から進学してくる児童について学級編制に関する配慮など相互に情報交換する場になっている。

■ 取組を行って

- お互いの学校の教育活動や児童生徒の様子が見える関係が大切である。
それを互いに理解した上で、連携を行うことができるようになった。
- 児童と生徒の交流が、憧れや中学校生活への夢を与えることができるような具体的な活動がしっかりと位置付けられるようになってきた。
- 反省を加えながら年々改善が図られてきている。
- これ以上の連携事業は、時間的に難しい面が多いため、質を高めていきたい。

ここに
注目！

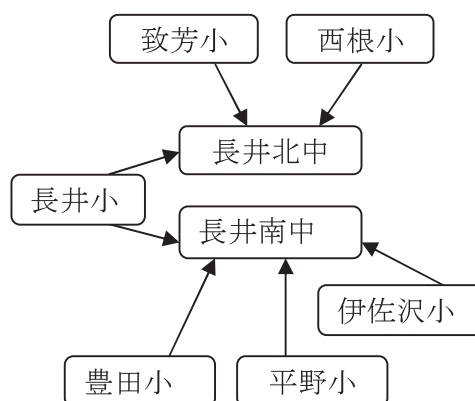
■ まとめ

児童生徒の交流が自主的になってきている。中学校への夢と希望をもって入学でき、子どもたち同士で支え合えるように「そだち」をつないでいこうとする着実な活動で、小中連携が図られている。

□ 学校基礎データ (平成24年度)

学校名	児童生徒数 (学級数)
長井市立長井北中学校	344人 (13学級)
長井市立長井小学校	728人 (26学級)
長井市立致芳小学校	193人 (11学級)
長井市立西根小学校	165人 (8学級)
長井市立長井南中学校	450人 (18学級)
長井市立豊田小学校	184人 (7学級)
長井市立平野小学校	178人 (8学級)
長井市立伊佐沢小学校	63人 (9学級)

<複一複連携>



新庄市教育委員会

「新庄市における小中一貫教育の推進」

～全中学校区における市委嘱研究による取組～

■ 取組の背景と現状

新庄市では、過去に起こった市内中学校での痛ましい事案以来、「いのちの教育」の充実を図り、小中の接続の連携から一貫教育へと市全体で力を入れている。平成18年度より市のすべての中学校区において、小中一貫教育に関する2年間の委嘱研究を輪番で行っている。平成27年には山形県初となる施設一体型小中一貫教育校の設立が萩野中学校区で決定している。平成18年度より新庄市の推進していた「もみの木教育プラン21」のもと「新庄市小中一貫教育基本方針」を定め小中一貫教育を市全体で推進している。

ここに注目！

- ・「新庄市小中一貫教育基本方針」が定められており、市内全中学校区で小中一貫教育を推進している。（すべての中学校区で統一されている）
- ・山形県初の施設一体型小中一貫教育校が平成27年度よりスタートする。

新庄市小中一貫教育基本方針概要

平成22年3月

- 1、これまでの小中連携一貫教育の実践を土台として、5中学校区で特色ある小中一貫教育をすすめます。
- 2、小中一貫教育を中学校区の実態に応じて、3つの型で推進します。
 - ① 単線連携型小中一貫教育 ～ 新庄中学校区・日新中学校区
学区を同じくする一つの中学校と一つの小学校が一貫教育を行います。
 - ② 複線連携型小中一貫教育 ～ 明倫中学校区・八向中学校区
1つの中学校と中学校区内の複数の小学校とで一貫教育を行います。
 - ③ 施設一体型小中一貫教育校 ～ 萩野中学校区（仮称：萩野小中学校）
同一校舎で小学生と中学生が生活を共にしながら一貫教育を行います。
- 3、小中一貫教育のねらいを以下のように設定します。
 - ① 学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子どもの育成
小中学校教員が9年後を見据え共通理解にたって指導を継続することで、「生きる力」の中核をなす将来につながる確かな学力を育成します。
 - ② 「ふるさと新庄」を愛し、誇りに思う子どもの育成
地域の人、もの、ことを学ぶ「ふるさと学習」を通して郷土への愛着を深め、地域を支えようとする人材の育成を図ります。
 - ③ よりきめ細かな支援の充実
小中学校の教員の連携・交流により、個性豊かな児童生徒一人ひとりの教育的なニーズに応じた指導を共通理解にたって継続的に行います。
- 4、各中学校区に「小中一貫教育推進協議会」（仮称）各学校に「地域の学校づくり協議会」（仮称）を設置し、中学校区で一体となった教育環境づくりをすすめます。
- 5、定められた学習指導要領の範囲内で、小中学校9年間の連続したカリキュラムを軸に、地域の特色を生かした教育課程を編成します。
- 6、義務教育9年間で指導上前期4年、中期3年、後期2年の区分とし、発達段階に応じた適時な指導と「ゆるやかな接続」を実現します。
- 7、「施設一体型小中一貫教育校」をモデル校とする小中一貫教育の「モデルカリキュラム」を作成します。
- 8、小学校と中学校の児童生徒の異学年交流を授業、行事、児童会生徒会活動等で計画的に位置付け、積極的に推進します。
- 9、小中学校間の教職員の壁をとりはらい、小中の複数教員による協力指導や小学校高学年への教科担任制を計画的に推進します。
- 10、異学年交流や地域との協働により、多くの人との関わり場を設定し、「こころの教育」の充実を図ります。
- 11、上記の考え方をもとに「新庄市立小・中一貫教育校基本計画策定委員会」を学識経験者、学校関係者、保護者、地域の代表等で組織し、小中一貫教育基本計画を策定します。
- 12、基本計画の策定状況について、「小中一貫教育推進協議会」等を通して周知広報、意見聴取を随時行っていきます。

【全中学校区において】

- ・小中連携（小中一貫）に関わる部会構成された組織が存在し、すべての教職員が連携の取組に携わっている。
- ・年に2～3回の小中連携（小中一貫）に関する全職員研修会が設定されている。
- ・交流授業のみならずボランティアなどの地域を巻き込んだ取組が多数みられる。
- ・小中連携が日常化し、教職員の小中連携に対する意識が高い。

【小中連携と小中一貫のイメージ】

「小中連携」

小中学校の接続を中心に強化した取組

「小中一貫」

共通の教育目標、基本方針の下、9年間を見通して継続して続けるなど、系統性がある取組

■ 委嘱研究の年度

委嘱研究年度	中学校区	中学校へ進学してくる小学校
平成18・19年度	新庄市立新庄中学校区	新庄小学校
平成20・21年度	新庄市立日新中学校区	日新小学校
平成22・23年度	新庄市立萩野中学校区	萩野小学校 泉田小学校 昭和小学校
平成24・25年度	新庄市立八向中学校区	本合海小学校 升形小学校
平成26・27年度	新庄市立明倫中学校区	沼田小学校 北辰小学校

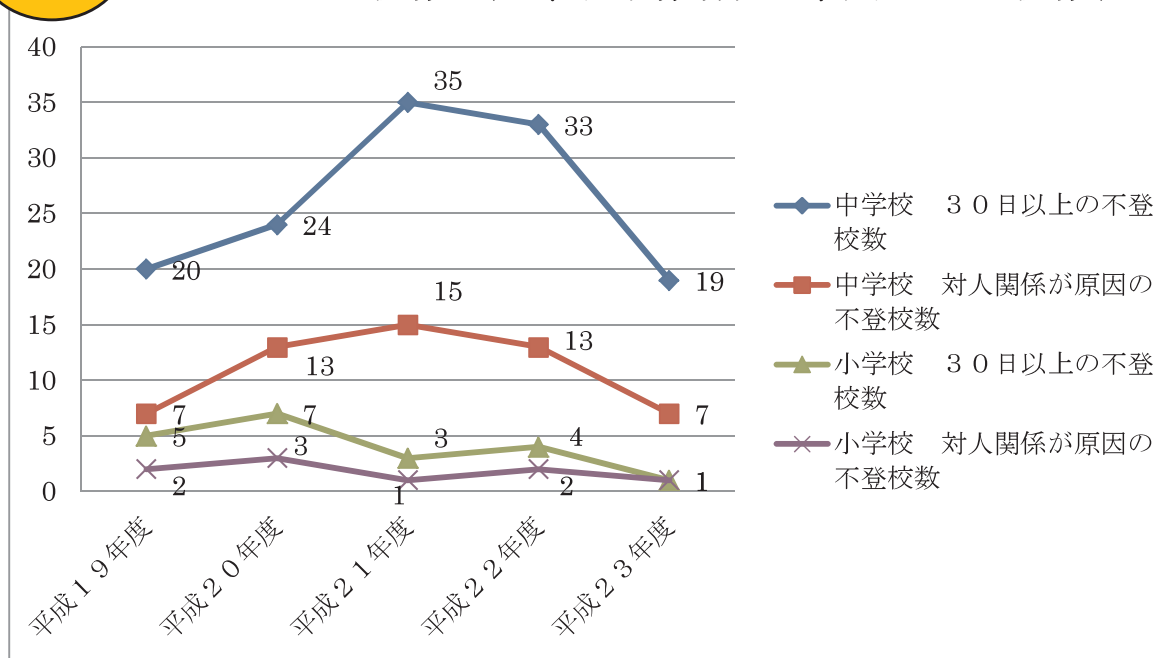
※委嘱研究2年目に研究発表会を行う。

■ 取組の成果

- 子ども同士の交流・学び合いを大切にした授業改善の視点を小中学校で共有できた。
- 特に中学生の生徒指導面での成果(生徒の自尊感情の高まり、心の醸成)がみられた。
- 不登校児童生徒が減少した。(いじめの認知件数も減少) ※下図参照
- 中学校区を単位とする生徒指導体制が同一步調で進められた。
- 児童会・生徒会の交流活動により子どもたちの主体的な活動を促すことができた。

ここに
注目！

不登校数（内、人間関係が原因の不登校数）



■ まとめ

県内全体で統廃合が盛んに行われている。最上地区も例外ではない。その中であって、市教育委員会が中心となり、市全体で小中一貫教育に取り組んでいる。各学校では、研究の委嘱を受けることで確実に取組の質の向上が見られ、様々な工夫や取組が市全体で共有されることで最終的には不登校数が減少するという目に見える形の成果が出てきている。

新庄市立新庄中学校区

「たくましく生き抜く力を育む小中一貫教育の推進」

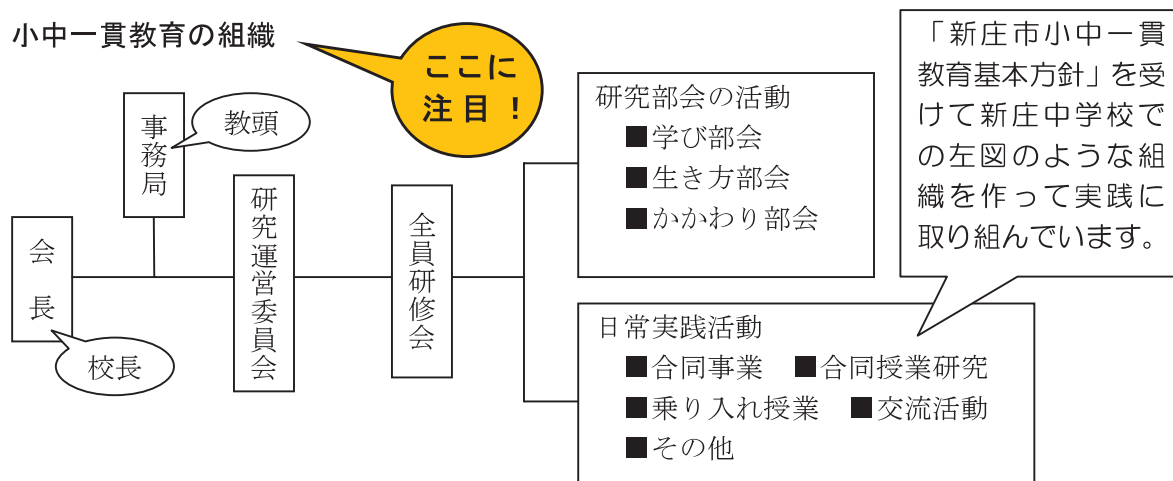
～他とのかかわりを通した自尊感情の醸成をめざして～

■ はじめに

新庄市立新庄中学校は、新庄市の中心部となる新庄城趾・最上公園に隣接し、市の学術・文化的な情報発信の拠点に位置する学校である。恵まれた教育環境にあるものの、内在した悩みを抱える生徒も少なからず見られ、生徒指導上の様々な課題を抱える学校でもあった。

こうした中で、新庄中学校では、新庄市で策定した長期教育プラン「いのち輝く新庄もみの木教育プラン21」に基づく小中連携・一貫教育を、平成18年度から組織的に整備し、平成18、19年度において市教育委員会より委嘱を受け、平成19年度にその取組を発表している。その後も新庄小学校との交流及び一貫教育の共同研究を積極的に進めている。

■ 小中一貫教育の組織



各部会の取組

- 学び部会 …… 学習指導を中心とした研究及び協議
- 生き方部会 …… 保健・安全指導を中心とした研究及び協議
- かかわり部会 …… 生徒指導を中心とした研究及び協議

■ 生き方部会の実践 ～小学生とのかかわりを通して～

○ 実践Ⅰ「合同あいさつ運動」

生徒会が中心となり、小学校玄関前でのあいさつ運動を展開している。当初は、役員の生徒が小学校を訪問して実施していたが、その効果や価値を自覚した生徒達の要望もあり、広く学級単位で取り組むようになってきた。

あいさつ運動が実施される日は、登校前の生徒が個々に新庄小学校の玄関前に集合する。そして、終了後そのまま中学校に登校する。

小学生と笑顔でハイタッチを交わす中学生の表情は、大変柔らかい。中学生への憧れを感じながら登校する小学生の表情も、非常に明るい。



○ 実践Ⅱ「低学年児童への読み聞かせ活動」

生徒自らが、小学校に出向いて低学年児童を対象にした読み聞かせに取り組む活動を仕組んでいる。この大きなねらいは、生徒一人一人の「自尊感情」の醸成である。いつもは、



暗い表情の生徒ほど、小さな小学生を見る目がやさしく、にこにこした笑顔で読み聞かせに取り組んでいる。さらに、こうした小学生との触れ合いが、内面に問題を抱えている生徒ほど、有効であることが明らかになってきている。小学生への読み聞かせについては、小学校との連携協力が不可欠であるが、これまでに築かれた「小中一貫教育」をめざした取組の一環として定着してきているため、事前打ち合わせも円滑に行われている。

■ かかわり部会の実践 ～地域とのかかわりを通して～

○ 実践「小学生との奉仕活動」

学区内を流れる「指首野川」は、新庄小中学生の学習エリアとして、地域の人々に広く愛されている河川である。この河川沿いの環境保護を目的とした「指首野川親子クリーン作戦」は、新庄中の生徒が小学生と共に活動する貴重な機会となっている。小学校では、3年生の親子と4年生以上の児童を対象に呼びかけがあり、保護者が参加できない小学生は、参加した新庄中の生徒と活動を共にすることになっている。回を重ねる毎に認知度が高まり、早朝からの活動にもかかわらず、多くの中学生が参加している。



また、毎年、夏季休業中に展開されている「小中合同ボランティア」も、親子クリーン作戦同様、小学生と共に清掃活動に取り組む貴重な機会である。ここでは、自分の住む町内単位での活動を、各町内のリーダーとなる中学生が中心となって展開している。

小学生や地域の方々と一緒に近隣の清掃活動に取り組む生徒の表情には、自信と誇りが満ち溢れている。

■ 学び部会の実践 ～教員の相互交流を通して～

○ 実践「中学校専科教員による小学生への出前授業」

中学校の教員が小学校に足を運び、専門教科の出前授業を行う機会は、教員にとっても



児童にとっても、貴重な機会である。中学校教員が、授業を通して小学生の実態を理解すると同時に、小学生にとっては、未知の中学校生活に対する不安感を取り除く絶好の機会となるからである。

専科教員による質の高い授業に、小学生が目を見張って参加する様子が見られ、今後も積極的に展開していきたい取組である。